

令和5年度事業報告

社会福祉法人 榎原ふれあいの里福祉会

○令和5年度 年間行事報告

- 4月
 - ・職員辞令式 入所式
 - ・音楽療法（毎月2回）
 - ・ダンスレッスン始まる（毎月4回）
 - ・職員施設内研修（10日/障害特性について）
 - ・給食会議（毎月1回）

- 5月
 - ・評議員会（6日）
 - ・さをり織り始まる
 - ・職員施設内研修（1日・15日/虐待防止について）
 - ・サービス管理責任者会議（29日/個別支援計画作成について）

- 6月
 - ・利用者外出（1日/ワールド牧場）
 - ・利用者外出（8日・29日/関西サイクルスポーツセンター）
 - ・利用者外出（15日/滝谷花しょうぶ園）
 - ・養護学校より実習生受入（26日～）
 - ・理事会（12日）

- 7月
 - ・養護学校より実習生受入（3日～）
 - ・職員全体会議（7日/虐待防止について/感染症対策の確認）
 - ・職員研修（26日/神戸人と未来防災センター見学）
 - ・アート部門担当職員研修（14日/たんぼぼの家見学）
 - ・個別支援計画作成並びに総括、見直し。
 - ・管理者会議（夏祭りについて）

- 8月
 - ・夏祭り（11日）
 - ・夏休み（13日～16日）

- 9月
 - ・防災訓練（施設・グループホーム）
 - ・職員全体会議（8日/虐待研修他）
 - ・施設外研修参加（12日/権利擁護・大和高田産業会館）

- 10月
 - ・十市神社秋祭り参加

- 11月
 - ・十市町菊花展参加（1日～/作品展示）
 - ・職員健康診断（2日）
 - ・施設外研修参加（10日/成年後見人制度について）
 - ・養護学校より実習生受入（13日～）
 - ・インフルエンザ予防接種（15日）
 - ・個別支援計画見直し/面談
 - ・利用者外出（28日/金魚ミュージアム）

- 12月
 - ・施設内研修（11日・14日/利用者への関わり方と情報確認）
 - ・クリスマス（25日）
 - ・冬休み（28日～1月3日）
 - ・しごと納め（28日）

- 1月
 - ・仕事初め（4日）/初詣・十市神社
 - ・特定技能実習生受入面接（22日⇔ミャンマー）

- 2月
 - ・管理者会議（7日/令和6年度の取組について・発表会の打合せ）
 - ・防災訓練（施設・グループホーム）

- 3月
 - ・施設外研修参加（9日/障害と公益）
 - ・理事会（16日/予算と事業計画について）
 - ・職員全体会議（22日/職員の移動と配置/年間行事の確認）

令和5年度事業報告

社会福祉法人榎原ふれあいの里福祉会

新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが5類に移行し、1年がたちました。日常生活は元に戻りつつありますが、感染の波は、今も静かに繰り返されています。新聞報道によりますと、昨年5月～11月の間に新型コロナで死亡された方は、16,043人居られるそうです。今なお、命を落とす人がいることを理解して、常に危機感を持ち続けて活動を進めた1年でした。

令和5年度においては、施設では、マスク着用、手洗いなどの基本的な対策は、継続して実践いたしましたが、残念ながら、1年を通して、利用者5名、職員1名がコロナに感染しました。

1. 生活介護・就労B型（日中活動支援）

利用者数の大きな増減はありません。授産事業は、100円ショップで売られているプラスチック製品の組立等が大半を占めました。総合庁舎に出向いての清掃作業にも参加することができました。施設外への就労は工賃のアップにも繋がったので、楽しみにする利用者も増えました。

アート部門のさをり織りは、個性豊かな作品が出来上がり、十市町公民館で展示して頂いたり、販売に繋がったりすることで、利用者の楽しみや、やる気がアップしました。

コロナ禍で運動不足や外出を余儀なくされていたのですが、4月にヒップホップダンスの指導者が見つかり、毎週木曜日、10人前後の利用者と職員でダンスに挑みました。内職仕事とアート、ダンス、音楽療法を組み合わせ、利用者の笑顔がたくさん見る事ができました。指導の先生方と議論を重ねて、今後も健康面と心のケアに繋がる取り組みを継続して支援を行っていきます。

福祉作業所時代からともに活動した利用者の方は30年以上の年月を費やし、20代で出会った人は、50代に、30代の時に会った利用者は60代になりました。コロナ禍を乗り越え、また、大事な家族との別れも経験しながらも、障害と向き合い逞しく頑張る利用者ひとり一人が希望する「幸せのかたち」を、個別支援計画を充実させながら職員それぞれが学びとして考えていきたいと思えます。

令和5年度、退職職員 非常勤2名
入職職員 非常勤3名

2. グループホーム（暮らしの場の支援）

グループホームに関しては、4月に養護学校を卒業して、グループホームを利用された女性の利用者が、3か月で退所に至りました。田原本町の「さくらば」は一旦、空室ができましたが、現在は、他のグループホームとの調整を諮り、定員5人を満たしています。

グループホーム専従職員の手が足りない時、日中活動の職員が応援に回っていますが、なるべく専従職員を増やし、職員配置の安定を諮っていきたいのですが、なかなか雇用に至りませんでした。

今後は、海外からの特定技能実習生を雇用する方向性を視野に入れ、職員が余裕をもって職務に就けるよう最大限の努力をしていきたいと考えています。

グループホームに於ける深夜勤務の職員の不安や労働量が少しでも緩和できる労働環境を作っていくことが、利用者の安心や幸せに繋がっていくことは間違いありません。

次年度も継続して暮らしの場を支えてくれる職員配置に力を注いで行くことが虐待防止に繋がる第一条件であると考えます。

令和5年度 退職職員 常勤1名
入職職員 非常勤2名（派遣職員が移行）

3. 防災訓練について

令和24年1月1日16時10分、能登半島をマグニチュード7.6の大地震の発生には大きな衝撃を受けました。あれから5か月余りがたちましたが、余震とみられる震度5以上の地震や、それ以下の地震が、各地で発生しています。いざ、南海トラフと予測される大地震が近畿地方を襲ってきたら、私たちは、どのような行動をとるべきなのか、改めて考えさせられました。令和5年度中には、備蓄の食料を充実させ、身の回りの介護用品等も徐々に増やしました。

防災訓練は、施設とグループホームで別々の日に行いました。実態に即して、グループホームは、夜間を想定した訓練も行いました。

神戸人と未来の防災センターを見学して、学習の機会にもしました。